

## 昇級おめでとうございます

次の皆様が“憧れのワッペン”を手に入れました。おめでとうございます。一層のご活躍を期待しております。

サッカー2級	菊池 俊吾氏、佐野 晴彦氏、田口 雄一氏、中山 雅之氏、三橋 美津夫氏
サッカー3級	石井 義徳氏、石橋 歩氏、江澤 晴樹氏、江澤 真樹氏、岡庭 洋平氏、茅野 祐一氏、川畑 功介氏、城村 健太郎氏、郡司 裕右氏、小林 智史氏、齋藤 英之氏、佐々木 大輔氏、澤本 真氏、渋谷 宣治氏、高橋 正国氏、竹原 和夫氏、田中 奎吾氏、田村 陸氏、中山 明秀氏、野中 柁輝氏、芳賀 哲也氏、濱田 和孝氏、牧 岳人氏、水野 高志氏、村上 均氏、山上 将伺氏、山口 宗明氏、渡辺 修氏
フットサル3級	伊田良太氏、松雄晋也氏、奈須聡子氏

昇級者の皆様の中より以下寄稿いただきましたのでご紹介いたします。

● 田口 雄一氏(サッカー2級)

こんにちは！この度、2級の昇級審査に合格いたしました田口と申します。まず初めに今回の昇級審査にあたり、多大なるご支援をくださった山岸委員長をはじめとする審判委員会の皆様、地元松戸で日ごろ審判活動をご支援して下さった松戸市審判委員会の皆様、練習試合で審判のトレーニングをさせてくださった母校の恩師、そして友人、家族。これら多くの方々のご支援ご声援があつての成果だと思っております。この場を借りて皆様へお礼申し上げます。本当にありがとうございます！！

私が初めて審判の資格を取得したのが中学1年生の時だったので、約15年かけて2級に辿り着くという大変長い時間がかかりました。途中、仕事の関係で約3年間審判活動ができない時期もありましたが、心の中でいつか必ず昇級するんだという想いを一度も切らすことなく燃やし続けることができたので、自分で環境を変え、審判活動に再び復帰し、今回のこの昇級まで駆け抜けることができました。現在28歳で決して審判として若い年齢ではありませんが、2級に上がることはゴールではなく、あくまでも通過点ですので、ここを新たなスタートとして今後も大好きな審判活動に全力で取り組んでまいります。改めまして、この度はありがとうございます！そしてこれからも精一杯頑張ってまいりますので、田口の活躍にご期待ください！！



2級昇格者のみなさま、左から三橋氏、菊池氏、佐野市、田口氏、中山氏

● 澤本 真氏(サッカー3級)

皆様こんにちは。船橋市の澤本と申します。満開の桜の中行われた4月の3級昇級試験で合格することができました。次のステージのスタートラインに立ち、憧れのワッペンをつけてレフェリー活動ができる喜びと期待でわくわくしています！

サッカーのレフェリー活動は、小学生の息子のサッカーチームで帯同審判のために資格取得したのがきっかけです。自分が選手だった頃には触れてこなかった競技規則を読み、こんなに奥が深かったんだと驚きました。チームの帯同審判として多くの試合を経験させてもらったことや上級レフェリーの方々のアドバイスもいただけたことで、自信をもってジャッジできることが多くなりました。特に船橋レフェリートレーニングに参加するようになってからは、競技規則を読んだだけではわからないポジショニングやファウルの見極め、シグナルの仕方、フラッグテクニックなど様々な技術を学ぶ機会があり、それが試合で実践できた時にはとても充実感があります！

最近では、サッカーを見る視点がどんどんレフェリー目線に変わっていき、今では息子以上に自分が楽しみながら活動しています。今後も楽しんでレフェリー活動を続けていく為に、体調管理に気をつけ、選手に全力で試合に臨んでもらえるよう説得力のあるレフェリングを目指して取り組んでいきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお祈りいたします。



澤本氏

● 渋木 宣治氏(サッカー3級)

松戸市在住の渋木と申します。まず、今回の3級審判員昇級認定審査を受験するにあたりまして、松戸市サッカー協会4種委員会審判部をはじめ、各方面の皆様からご指導、アドバイスを頂戴したことに對しまして深く感謝いたします。

私が審判を取得したのは、今から4年前に息子が所属していた地元チームのコーチとしてお世話になったことがきっかけでした。そして、ある大会で、他チーム3級審判のレフェリングを見て、試合開始前・試合中常に周囲に目を配りながら、ゲームコントロールしている姿に感銘し、3級取得への夢が、はっきりとしたものになりました。しかし、初審判(副審)の時にはジャッジの難しさを体験したことが悔しさとなり、反省の日々が続きました。

3級審判員の資格取得がゴールではなく、こらからの始まりであることを肝に銘じ、ピッチ上において、選手達がベストパフォーマンスを発揮できるようなレフェリングを心掛け、引き続き先輩方からのご指導、また、同時期に3級審判員を取得した所属チームの同僚と共に切磋琢磨しながら、より一層審判技術を向上させてまいりたいと考えております。

